

特許協力条約

PCT

REC'D 12 AUG 2004

WIPO PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第12条、法施行規則第56条)
〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 R-17	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/10604	国際出願日 (日.月.年) 22.08.2003	優先日 (日.月.年) 02.09.2002
国際特許分類 (IPC) Int. C17 F16K31/122		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社フジキン		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a 附属書類は全部で _____ ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)

第I欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。 (実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第I欄 国際予備審査報告の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第IV欄 発明の單一性の欠如
 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 22.03.2004	国際予備審査報告を作成した日 15.07.2004
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 渡邊 洋 電話番号 03-3581-1101 内線 3380

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。
 PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
 PCT規則12.4にいう国際公開
 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 指定により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条 (PCT35条(2)) に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1 - 6	有
	請求の範囲		無
進歩性 (I S)	請求の範囲	1 - 6	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1 - 6	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 63-289388 A (日本弁管工業株式会社), 1988.11.25, 全文, 第1-4図

〔請求の範囲1-5〕

上記文献1には、第4図面(従来技術)を参照すれば、流体通路が設けられた弁箱(1)と、流体通路を開閉する弁体(弁棒5底部)を押さえる上下移動可能な弁体押さえ(弁棒5)と、弁箱上部に設けられた下部ケーシング(15)と、下部ケーシングと接続された上部ケーシング(15)と、上下ケーシングによって形成された空間内に配置されて下端が弁体押さえに当接している弁棒(ロッド7)と、弁棒に固定されたピストン(14)とを備え、ピストンの上面と上部ケーシングの頂壁下面との間に上部空間が、ピストンの下面と下部ケーシングの底壁上面との間に下部空間がそれぞれ形成されている流体制御器において、下部空間に、ピストンを付勢する圧縮コイルばね(16)が配置され、同他方に、圧縮空気導入路(17)が接続された流体制御器が記載されている。

また、上記文献1には、弁棒(7)とピストン(14)とが圧入により一体に形成され(第4図面)、ケーシングの頂壁下面(第3図面)、下部ケーシングの底壁上面(第4図面)に、ばね受け用環状凹所が形成され、

上部ケーシングの頂壁に、上向きに開口した圧縮空気導入管接続用めねじ部(17')とこのめねじ部の下端に連なって上部空間に開口する圧縮空気導入用下向き通路(第1図面)とが形成され、

常時開型であって、圧縮コイルバネ(16; 第4図面)が、ピストンの下面と下部ケーシング上面のばね受け用環状凹所とによって受け止められた流体制御器が記載されている。

よって、請求の範囲1-5に係る発明に新規性及び進歩性は認められない。

〔請求の範囲6〕

上記文献1には、第3図面を参照すれば、常時閉型であって、ピストン(14')の上面にばね受け用環状凹所が形成され、圧縮コイルバネ(41)は、この環状凹所と上部ケーシング下面のばね受け用環状凹所とによって受け止められており、ピストン(14')は、上部ケーシングの圧縮空気導入用下向き通路に嵌め入れられた上小径部(円筒体37')を有し、ピストンに、上端が上部ケーシングの頂壁の圧縮空気導入用下向き通路に通じ下端が下部空間に通ずる圧縮空気通路(39)が形成された流体制御器が記載されている。よって、請求の範囲6に係る発明に新規性及び進歩性は認められない。